リンダ デルガド／米国出身の元キリスト教徒（ ）

：

明:イスラ ム改宗 の、新しい 。

目: 事新改宗者ムスリムの逸 女性

より: リンダ デルガド

日01 Jul 2013

集日 01 Jul 2013

私は、仕事のないときには「イスラ ムの基 」クラスにも参加しました。当 はまだ州警察の巡 で、ヴェ ルをまとうことは しい、いや不可能なことでした。このことは私にとって、不 と 念の源泉となりました。8ヶ月 には定年を迎えたので、それまでは在宅で 3日のテレコミュニケ ションと研究 の担当を要 し、受け入れられました。

その半年 も、モスクの 妹たちは私に打ち解けようとしませんでした。私はがっかりしました。そしてだんだん自分が部外者のように感じてきました。私は当惑しましたし、心配しました。私は何人かの 妹たちと共同で地域奉仕活 を始めました。私はサウジの息子たちによって 日 践されていた 切さ、友情心、そして礼 を求めていたのです。私はモスクで多くのミスもしました。例えば礼 室で会 にいそしんだり、食事会では左手で食事したり、爪にマニキュア液を って叱られたりしました。またウドゥ （礼 前のお清め）を ったやり方で行い、眉をひそめられたりもしました。それらのことで、とても落胆しました。

しかしある日、インタ ネットで知り合った 妹からの小包が 便で届いていました。その中には何着ものアバ ヤ、ヒジャ ブ、シルクのストッキング、そして私のイスラ ム改宗を 迎する、暖かく友情にあふれた手 が同 されていました。彼女はクウェイト在住でした。次に、 の 切な 妹からは、彼女手作りの礼 着と礼 用 毯が送られてきました。彼女はサウジアラビア在住でした。また、一通のEメ ルを受け取り、それは同じく新改宗者の

彼女がときに「部外者」のように感じていることを相 するものでした。そこには、「私は多くのムスリムたちと出会う前に改宗していて良かった。」と かれていました。これは中 ではなく、イスラ ムは完全だけれども、ムスリムは不完全なのだということを思い出させるものです。私自身に欠点があるのと同じよう、他の 妹や兄弟たちも同なのです。また、私は 人的に、神がムスリムに与えた最も大きな恩 の一つとは、同胞なのではないかと感じ始めました。

去4年 で、私の人生は急激に 化しました。私の家族は、 切さと 容心から、私がムスリムであり、ムスリムとして留まるということを受け入れるようになりました。 する家族によってイスラ ムを放 するよう迫られるといったような、多くの改宗者たちが直面するような から私をお救いになった神に、称 あれ!

次第に私は、地元やネット上で意 投合出きる 妹たちと出会い、何十人もの 妹たちがサポ ト、 情、友情をもたらしてくれました。ムスリムとしての一年目が わろうとするとき、生命を かす病 に してかかってしまいました。私はイスラ ムという にしがみつきました。世界各地の 妹たちは、日 のドゥア （祈 ）と共に、ブラック シ ド茶やザムザム水を送ってくれました。

私の健康状 が 化を け、身体が弱くなると、私は地域奉仕活 を断念せざるを得なくなり、地元のムスリムコミュニティからも となりました。一方で、アラビア の 音は非常にしかったですが、礼 をきちんと出来るようになるよう りました。私のイスラ ムの先生はカセットテ プを作ってくれ、ある 妹はそれを私の家まで届けてくれたりしました。2年 、私はクルア ンの4つの章を朗 できるようになりました。大半のムスリムたちにとって、この数は少なく映るかも知れませんが、私にとっては大きな 成でした。それから礼 の他の部分の言 の暗 にも取り かりました。それには更に2年 の苦 が必要でした。

ムスリムとしての3年目の前半、私は心 作を起こし、手 を受けました。それによって礼には椅子に座って行わなければならなくなり、 を地面に付けて礼 することが今 もう出来なくなることが分かり、悲しさで一杯でした。しかしこの 、私は神の恩 であるイスラ ムが、容易な宗教であるということを真に理解したのです。椅子に座った状 での礼

や、病　の断食の中断は められているのです。そのおかげで私は、こうした 状によってムスリムとして不 格だと感じずに みました。

いくつかのモスクを　した 、それらが小さな「国 」のように、モスク内でも言 や文化によっていくつかの小さなグル プに分かれていることが分かってきました。そうした相にも わらず、イスラ ムに った笑 と「アッサラ ム アライクム（あなたに平安あれ）」の挨拶は、常に 人　における共通の 滑油なのです。

しばらくすると、私は自分のような新改宗者の 妹たちに くようになってきました。私たちは多くの共通 を共有していました。ノンムスリムの家族、アラビア の 音における苦、イスラ ムの祭日や、ラマダ ン中の断食を解くときの孤独といった、同じような　をしているからです。改宗するということは、私たちの新たな　を容 出来なかったり、ダンスや男女混合といったような活 を止めてしまうといったようなことから、 には 年の友人を失うことも意味します。

地域奉仕活 が出来なくなったことから、私はムスリムコミュニティ全体に して 献することの出来るような方法を探し始めました。それについて、常に神の援助を求めていました。ある日 娘が、私がサウジの息子たちや、イスラ ム、そしてイスラ ムに する家族の　などをまとめた本を出してはどうかと提案しました。私はそれらについて、そして友人だったムスリムと非ムスリムの若い女性たちの逸 を 介する本を くことを 意しました。それらの逸 は、若い女性が学校や家庭などで直面する　　に し、イスラ ム的な解 法を示すものです。

私は き始めた数 の本のシリ ズを「イスラミック ロ ズ ブックス」と呼びました。また著者と著者志望の 妹のためにネット上のグル プを立ち上げ、それはIslamic Writers Alliance（イスラ ム著者 合）の 立にまで 展しました。この 合は、著者や著者志望のムスリム女性のための支援を提供する国　体です。その主な目的は、 者や出版社に私たちの著作を めることです。また私はムスリムのフ ドバンクが、在 やクライアント、　先を把握することの出来るデ タバンクを作り、 金提供のためのレポ ト作成を容易とする手助けをしました。また私の著作　の利益の大部分を、イスラ ム子ども　　の本の 入に充てまし

た。そういったイスラ ム 籍が置いてあるはずの　の本棚の多くが空っぽだったことを　したからです。

私には、まだまだイスラ ムに して学ばなければならない多くのことがあります。クルア ンを むことに疲れたことはありませんし、私の好きな余暇の ごし方は、イスラ ムにおいて有名な 史的人物に する著 を むことです。私がイスラ ムにおいて何か 信が持てない 合は、 言者（彼に平安あれ）のスンナに答えを 出そうと努めます。私は彼が 々な状においてどのような　をしたのかを自らの きとします。私のイスラ ムにおける旅は き、私は新たな　を期待しています。私は神の慈悲と　を、日々感 しています。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/1740

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。